別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区北砂6-27-19
施設名	みらいく北砂園

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

からだのうごき(運動遊び)

〈テーマの設定理由〉

日々の保育の中で、保育室や戸外で子ども達が体を動かして遊ぶことに興味や関心がある様子が見受けられた。園内にある様々な運動用具を使うことで、子どもたちが自ら面白い動きの探求や、少し難しいと感じる運動へ頑張る姿、お友達との遊びの共有などを運動遊びを通して学ぶ良い機会になると考え設定した。

２　活動スケジュール

・専門家による研修受講（9月3日）
→運動の基本について・安全とリスクの管理／36の動きを活用した環境設定の考え方／実際の組み方のデモンストレーション／関わり方（問いの引き出し方、見守り方）など
・専門家による訪問支援9回：（7月9日～3月31日）
→子どもたちの興味関心からからだの動かしへの探求を踏まえるためのアイデアを実践を交えて研修を受講。毎月定期的に訪問してもらうことで、子どもたちの様子からどのように運動遊びに繋げていけば良いかの具体的な方法を相談し助言をもらう。
・保育者による実践：月２回程度
→専門家による研修で学んだことを意識し、下記のような流れで実施。
①集まる、挨拶
②自由遊び（巧技台を使って遊ぶ）
主体性を持って、自分のやりたい場所に行き自由な発想で遊ぶ。
③動機付け遊び（大縄跳びや新聞紙遊びをする）
最初は保育者の動きを真似して遊ぶ。そのあと自分で考えた遊びを広げていく。
④課題遊び
バランスを鍛える遊び、身体の移動、動きによって自分の身体が変化することに気付く。
⑤振り返り
できたことを振り返る。友だちの話を聞く。

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

運動器具（巧技台・ミュージックパッド）、専門家による研修

4　探究活動の実践

巧技台とミュージックパッドを組み合わせ、隣接するスペースには縄跳びやお手玉などを配置し、自由に遊べる環境を構成した。巧技台は、その日に経験してほしい動きを意図して設定した。子どもたちは滑り台をお尻や頭から滑ったり、駆け上がったり、手すりを登ったりするなど、様々な場所で多様な動きを考えながら挑戦する姿が見られた。また、チャレンジスペースでも自ら遊びを選択し、異なる運動に取り組み楽しむ様子が見られた。巧技台の組み方に関心を示したためミニチュア巧技台を用意し、机上で構想し、実際に組み立てて遊ぶ機会を設けた。活動後には振り返りを行い、面白かった点や改善点を共有し、次回の活動へつなげた。これらの取組の一端を、運動会や発表会で保護者に披露できた。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

・巧技台を見て「公園パーティーみたい」
・一本橋をいろんな渡り方で遊ぶ。ビームで寝転ぶ。
・異年齢で「こうしてわたってみよう」と話して渡る。
・「どうやってやるの？」といい、教え合う。
・鉄棒で怖がっていたが、保育者に支えてもらうとやろうとしていた。
・巧技台を渡りながらじゃんけんして遊んでいた。
・時間まで触らないように気を付けながら巧技台を潜り抜けていた。
→時計をみて「もう12になったから触っていいよ」と友だちに知らせていた。
・スカーフとお手玉を入れたスカーフで落とすとスピードが違うことに驚いていた。

5　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・縄跳びは子どもに合わせず、リズムに合わせて子ども自身が跳べるようにしていく。
・変数は新聞紙1枚でも、ちぎる・投げる・折る・当てる・滑るなど様々な変数がある。
・逆さになることが怖がる子がいた。逆さまは怖くないという意識づけができるように、手押し車→前転→壁倒立など順番で逆さまに近づける。
・力加減を理解するためにおしくらまんじゅうや相撲、綱引きなどの経験を増やしていくことも大切。
・以前よりも子どもの自発性とクリエイティブ性が増えた。

別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区北砂6-27-19
施設名	みらいく北砂園

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

からだのうごき(ダンス)

〈テーマの設定理由〉

運動会で味わった踊る楽しさへの興味・関心を高まった為、このテーマを設定した。音楽に合わせて自由に体を動かし、自分で考えた動きを表現する楽しさを体験しながら、体の動きやリズムについて探究することを目的としています。音楽に合わせて体を動かすことでリズム感や体のコントロール力が身につき、運動遊びでのけがの防止にもつながります。また、自己表現の力を育むことも期待しています。

２　活動スケジュール

専門家による指導（全13回／12月19日～3月31日）
・週1回の訪問指導
準備運動を行った後、子どもたちの興味・関心を起点に、からだの動かし方を探究できるような動きやステップについて、実践を交えながら指導を受ける。
毎週定期的に訪問していただくことで、その時々の子どもたちの姿を踏まえ、どのような動きやステップへと発展させていけばよいか、具体的な方法について相談し助言を得る。また、月1回は振り返りの時間を設ける。

・保育者による実践
専門家による指導で学んだことを意識しながら、日々の保育の中で実践する。
① 講師から教わった準備運動を行い、使用した楽曲をかけながら、教わった振付や子どもたちが考えたポーズを取り入れて踊る。
② リズムの取り方が似ている楽曲を探し、子どもたちの好きな動きやステップを生かしながら、主体的に楽しく身体を動かす。
③ 数人ずつで見せ合いの時間を設ける。
④ 振り返り
自分なりに工夫した点や、友達の素敵だと感じた点を発表し合いながら振り返る。

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・スピーカー
・CDデッキ
・立ち位置用のテープ

４　探究活動の実践

〈活動の内容〉

挨拶後、準備運動を行う。準備運動の中には体幹を鍛える動きを取り入れており、回数を重ねる中で体の軸が揺れにくくなっている。準備運動後は曲に合わせて講師を見ながら、新しい振付を覚えて踊る時間を設定した。新しい振付を覚えた後に前回の踊りを含めて通して踊る。踊る中で振付を間違えてしまい悔しそうにする子の姿も見られるが、練習時間を設けることで次こそ成功させようという意欲をもって取り組んでいる。決めポーズは自分たちで考えてそれぞれのポーズをしているが、他児のポーズを見て模倣したり一緒にポーズを考えるなど関わり合う様子が見られた。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

・Ｖ字バランスで「僕はもっと足があがるよ」と友だちに見せて喜ぶ。保育者が「どのようにしたら、高くなったの？」と聞くと、「ぎゅっと足を持ってすると高くなった」と話す。
・振付を間違えると悔しそうに「もう一回やる」と繰り返しチャレンジし、それを見た友だちが「こうやって踊るんだよ」と教えようとしていた。
・リズムと手拍子が合わないことに自ら気付き、友だちや講師のリズムを見て直そうとしていた。
・踊りと自分の体の動きが合わない子には、保育者が側で理解しやすい言葉とともに一緒に踊っている。
・ジャンプの時の足音が大きいことを講師から指摘されたことを「どんな風にジャンプすると静かになるかな？」と問いかけると「足を静かに動かして、ちょっとずつジャンプしてみよう」など意識してジャンプしていた。また、講師のジャンプの音を聞き「うさぎみたい」「忍者みたいだ」と様々なものに例えていた。

５　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・リズムに合わせてさまざまな振付やステップに取り組む中で、「どのように動かすとリズムに合うのか」「どの動きが心地よいか」を試しながら踊る姿が見られた。多様なからだの使い方を経験することで、動きとリズムの関係に気付き、リズム感が育まれてきた。
・片足立ちやV字バランスなどに継続して挑戦し、力の入れ方や姿勢を意識して試行錯誤する中で、体幹が鍛えられバランスが安定してきた。
・決めポーズの場面では、一人一人が自分のからだの動きや形を意識しながら工夫する様子が見られた。また、他児のポーズをみて「やってみたい」「どうやったらできるかな」と考えながら新たなポーズに挑戦するなど、互いに刺激を受けながら探究を深めていた。
・動きの違いや面白さに気付き、友だちと試し合いながら踊る楽しさや見せ合う喜びを味わっている。